

令和2年度 地域ケア個別会議実績

「地域ケア会議」は、地域の多様な専門職が協働し、ケアマネジャーへの支援を通じて、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしをいつまでも続けることができるよう、地域全体で支援するための手法です。

令和2年度は、北部包括支援センターと南部地域包括支援センターを運営主体として実施しました。

1. 自立支援のための、地域ケア個別会議（毎月1回）

会議目的：自立支援・介護予防の観点から踏まえて、「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」めざす。

No.	開催日	性別	年齢	家族構成	介護度	問題点	専門職からのアドバイス
				単, 夫婦			歯：歯科衛生士 栄：管理栄養士 作：作業療法士 薬：薬剤師 主：主任介護支援専門員
1	R2 6/15	男	68歳	妻と二人暮らし	要支援 2	<ul style="list-style-type: none"> めまいによる体調不良で、閉じこもって横になって過ごしている。廃用症候群の心配あり。 本人が医療に関して不信感があり、きちんと内服できていない。サービスの継続にもつながらない。 	歯：唾液の分泌を促すために、孫や娘に協力してもらい、会話を増やしてみる。 栄：なぜ味覚が分らないのか、確認したほうがよい。 作：本人に動く機会を作るため、身の回りのことなど本人ができることで役割をつくと良いのではないかと。 薬：きちんと内服できていない。治療のためにも、医療関係者の誰でも良いので、信頼関係を構築できる方を見つける。
2	7/20	男	71歳	妻と二人暮らし	要支援 2	<ul style="list-style-type: none"> 在宅酸素をつけていて、病状が安定しているが、呼吸状態が悪くても、息苦しさを訴えないため、見守りが必要 持病があるが悪化させないよう予防がきちんとできてない。 	歯：肺炎予防のために義歯の確認をする。唾液の分泌をよくするため体操や会話をするなど、口腔ケアをしっかり行ったほうが良い。 栄：定期的な体重測定の実施を行う。 たんぱく質などの十分な栄養摂取や水分摂取を行う。 作：息苦しさを感ないためめに酸素測定を行う。 家事の動作軽減を図る。 薬：違う種類の吸入薬を使用する場合は薬剤師に相談してください。
3	7/20	女	83歳	独居	要支援 2	<ul style="list-style-type: none"> 圧迫骨折があるが、生活空間が2階である 栄養バランスが考えられた食事をきちんととり便秘・低栄養を予防する。 リハビリを継続して、腰痛軽減に努める必要がある。 	歯：歯を守るため唾液を出すと良いので、意識してよく噛んでほしい。 口腔内を中和するためうがいも効果的。 栄：高たんぱく、高エネルギーの食事にするため栄養補助食品を取り入れると良い。低栄養にならないため訪問栄養指導を受けたり、配食サービスを利用することも効果的。 作：長く家事を続けられるよう生活動作の中で工夫してほしい。 また、コルセットの装着について不快にならないよう工夫したり 医師に相談してみてもどうか 薬：腰痛に対する痛み止めの処方はあるかもしれないか 逆流性食道炎については誤嚥に注意してください。

No.	開催日	性別	年齢	家族構成	介護度	問題点	専門職からのアドバイス
				単, 夫婦			歯：歯科衛生士 栄：管理栄養士 作：作業療法士 薬：薬剤師 主：主任介護支援専門員
4	8/24	女	93	独居	要支援1	<ul style="list-style-type: none"> 転倒や骨折予防のための生活面の工夫、具体的サービス利用提案方法について（本来であれば利用が必要であろう通所型サービスの利用など）検討したい。 	<p>歯：会話を積極的に、会話以外にも新聞や本を音読する。</p> <p>栄：塩分やカリウムを控えた食事をする事で浮腫の軽減、体重の維持ができ、転倒予防になる。ヘモグロビンが低値であるため赤身のものを摂取。繊維を断ち切る切り方など工夫する。配食サービスの利用を検討。</p> <p>作：シルバーカーの使用を検討。家事の負担がある場合は、ヘルパーの利用を検討する。</p> <p>薬：心臓の負担増大の恐れあり。物忘れによる内服管理について、状況確認していく必要がある。</p>
5	8/24	男	84	妻、長男嫁と三人暮らし	要支援1	<ul style="list-style-type: none"> 専門的なリハビリテーションを取り入れる必要性やその提案のタイミングが難しい。 車の運転の安全性に対してケアマネジャーや関係者の関わりについて。 	<p>歯：会話を増やし、口の体操を実施した方がよい。</p> <p>栄：塩分控えめで、バランスよい食事を続けていき体重の維持をする。</p> <p>作：筋力低下がみられるようなので、リハビリテーションを実施した方がよいのではないかと。専門職から助言してみてもどうか。</p> <p>薬：内服薬にワーファリンなど食事に気を付ける内服薬があるので、注意する。その他の薬でも副作用でふらつきに注意。車の運転に関しては、目のケアの確認も必要である。</p>
6	9/14	女	90歳	次女と二人暮らし	要支援1	<ul style="list-style-type: none"> 本人の意思・習慣により、介護サービスの導入がスムーズにいかない 残薬が多く訪問看護導入したいが本人の拒否が強い。 家事が生きがいなので、生活動作中でのリハビリをしていく 話の出来る環境を増やしていく。 	<p>歯：話ができる環境づくりをする。口を閉じる時間が多いので、よく噛んだり、話したりする方法を考える。</p> <p>栄：糖質に偏らずたんぱく質を摂るようにする。（缶詰、納豆、豆腐）冷凍食品も活用してみる。間食も乳製品、豆、卵など使ったものを利用する。</p> <p>作：個別リハビリの必要性あり→訪問リハビリにつなぐ必要がある（家事動作の腰痛悪化防止のリハビリ）</p> <p>薬：服薬の1包化を勧める。過活動膀胱については副作用を気にしておくこと</p>
7	9/14	男	77歳	妻・長女と三人暮らし	要支援2	<ul style="list-style-type: none"> 手すりが必要と思われるが、ついていない。 車を運転しているが、ぶつけたあとがいくつかある。 	<p>歯：早食いに注意。数を数えながらよく噛む娘さんにも噛み応えのあるものを作ってもらおう。</p> <p>栄：むせることの悪化について注意する。調理方法の工夫。焼き魚→煮魚 食材の大きさの工夫。</p> <p>作：身体の機能低下について環境評価を行い手すりなど検討が必要。家族からの声掛けを促す。</p> <p>薬：内服は変更のタイミングでの症状の確認が必要。夜中に何度もトイレに行く→転倒リスクが増える。車の運転をどう考えていくか</p>

No.	開催日	性別	年齢	家族構成	介護度	問題点	専門職からのアドバイス 歯：歯科衛生士 栄：管理栄養士 作：作業療法士 薬：薬剤師 主：主任介護支援専門員
8	10/19	女	89	夫、長男 夫妻と四 人暮らし	要支援1	・転倒が月1.2回あり。コロナ禍でデイサービス以外の外出頻度も減っているため、歩行状態の悪化が心配。	歯：義歯を作成した方がよい。咀嚼・嚥下機能低下を防止。噛み合わせが悪いと、難聴の悪化も懸念される。 栄：転倒があるため、タンパク質やカルシウムを意識する。人との交流を持ち、食欲低下を防ぐ。 作：皿を洗うなど自身の役割が継続できる環境づくりを行う。屋外歩行はシルバーカー使用も検討。家事が負担になる場合は、役割分担を検討する。 主：ご本人の状況から区分変更の検討もあり。難聴が本人にとって不安要素になっており、鬱への心配も考えられるので、改善が図れるとよい。
9	10/19	女	73	夫と二人 暮らし	要支援2	・入浴動作など困難な状況の為、リハビリテーションを導入してもらいたいが、なかなか専門職の意見を受け入れてもらえず苦慮している。	歯：義歯を長く使うには、定期歯科検診をしてもらうとよい。口を動かすように交流を持ってもらう。 栄：糖分のみの食事は筋力低下につながる。品数が多く、塩分に気を付けたバランスよい食事が望ましい。宅配弁当の利用も検討する。 作：入浴、家事動作を楽にできる方法をお伝えし、環境調整の見直しをすると、本人の受け入れもよくなる可能性あり。 薬：処方日数と残薬に誤差があり、飲み忘れの可能性が考えられる。服薬管理の支援も必要。 主：興味関心チェックリストなどを活用し、いろいろな提案を行ってみる。リハビリの必要性については、主治医から助言してもらう。
10	11/16	女	94歳	長男と二 人暮らし	要支援2	・家族関係は良好だが、家族以外の人との交流がなく閉じこもり傾向にある。	歯：義歯を見直す機会として訪問歯科を促したらいいのではないかと歌など歌ったり音読をし、嚥下機能回復に努める。 栄：月1回は体重測定（食事量の管理） たんぱく摂取を心掛ける。（刺身・赤身・ヨーグルトなど） 作：自宅内の生活を安全に行えるようにする。（入浴→手すりの見直し） 草取りは椅子を使用する。 薬：乾燥予防（湿布を外す際には皮膚を損傷しないように湿らせる） 便秘の状況確認（酸化マグネシウムを内服している）

No.	開催日	性別	年齢	家族構成	介護度	問題点	専門職からのアドバイス
				単, 夫婦			歯：歯科衛生士 栄：管理栄養士 作：作業療法士 薬：薬剤師 主：主任介護支援専門員
11	11/16	女	90歳	独居	要支援2	<ul style="list-style-type: none"> 精神的に不安が強く意欲低下につながっているように思われる。(デイサービスは休みがち) また、廃用が病状悪化にも繋がっている。 	<p>歯：骨粗鬆症があるので、治療の制約がある。定期受診を進める。 内服の影響で口喝があるので注意する。口を動かす。</p> <p>栄：タンパク質を意識し、卵・肉類を摂取。配食サービスの利用や缶詰の利用。</p> <p>作：不安を取り除く、デイ、訪問リハビリに自宅内での安全な動作を見てもらう。配食サービス、愛の定期便の利用を検討する。</p> <p>薬：8月で血圧が高くなっているため寒くなると心配。医師に血圧を報告する。痛み止めは湿布だけなので飲み薬の検討もしてもらう。</p>
12	12/21	女	83	独居	要支援1	<ul style="list-style-type: none"> 心疾患など持病がある為、体に負担がないよう自立支援を目指した援助を継続する必要がある。 	<p>歯：人工血管のオペをしているため、歯周病などの感染症や義歯が合わず潰瘍形成なども予防した方がよい。その為に、定期的な歯科検診を受ける必要がある。</p> <p>栄：タンパク質をさらに摂取した方がよい。減塩にも心がけ、体重も維持していく。便秘予防のため、水分や食物繊維も摂取する。</p> <p>作：心臓に負担を与えないように買い物を行うため、キャリーなどの使用も検討。家事の負担はヘルパー利用を検討する。</p> <p>薬：薬の内容が1年間で変化しているので、体調変化が把握できる。</p> <p>主：自立支援を目指した支援を継続してほしい。緊急対応も検討する。</p>
13	12/21	女	88	長男と二人暮らし。	要支援2	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション等必要なサービスを利用してもらいたいが、長男も身体障害があり経済的な理由等のため、導入できていない。 	<p>歯：糖尿病で歯周病などが悪化するリスクあり、感染のリスクも高い。悪化して抜歯等にならないように気を付けてほしい。</p> <p>栄：糖尿病もあるためバランスのよい食事、体重低下防止のためたんぱく室の摂取を心掛ける。体重の維持ができるように。</p> <p>作：リハビリテーションが必要かと思われるので、トイレの手すり設置等も含めて、リハ職の介入のきっかけを作してほしい。</p> <p>薬：薬も多く服用しているため定期的な体調管理が必要。</p> <p>主：息子に身体障害があるため、今後のことを考え、息子との相談支援委員との連携も必要。</p>

2. 困難事例の、地域ケア個別会議（不定期）

会議目的：自立支援・介護予防の観点を加え、専門機関や地域住民が連携して、支援の方向性等の情報共有化や役割分担を行い、問題を解決する。

No.	開催日	性別	年齢	家族構成	介護度	認定期間	利用サービス	参加者	整理された課題	今後の計画
				単, 夫婦						
1	R2 5/13	男	70	妻と二人暮らし	未申請		なし	民生委員、市（健幸長寿課）、包括職員3名※計5名	近隣との騒音トラブル。飲酒時のトラブル等、精神的な訴えが多い状況。	民生委員との連携。保健センターの精神保健福祉士との連携を行う。
2	6/5	男	70	妻と二人暮らし	未申請		なし	保健センター（精神保健福祉士）、市（健幸長寿課）、包括職員2名※計4名	No.1のケース。同じく近隣との騒音トラブル。隣人から警察へ通報済み。医療との連携や妻、本人へのアプローチをどのようにしたらよいか。	自宅訪問し、まずは妻との面談を行い、その後の対応は各関係者で情報共有し進めていく。
3	7/8	女	75	夫と二人暮らし	要介護2	R1. 12. 1 ~ R2. 12. 31	訪問看護、通所介護、訪問看護、居宅療養（薬剤師）	成年後見人（弁護士）、担当ケアマネ、市（健幸長寿課、介護福祉課）、保健センター（精神保健福祉士）、訪問看護、薬剤師、包括職員2名※計9名	夫からの訴え等でケアマネジャーや関係者が苦慮している状況。本人にとって必要な支援を提供するために、関係者間で連携を図り、対応していく必要がある。	北部地域包括支援センターも介入し、ケアマネジャー支援を行っていく。